

このコーナーは、曾於市に住む鹿児島県男女共同参画推進員が、曾於市のいろんな方々にインタビューするコーナーです。



財部町中大川原

高瀬 睦子さん

人と人とのふれあい、つながりを大事に活動しています。

高瀬さんは更正保護女性会の会長を務めながら、学校応援団として財部北小学校のコーデイネーターやいきいきサロン、ゴッタンクラブの活動を活発にされています。そんな高瀬さんが活動を通して見えてきたものを話してくれました。

更正保護女性会では主にどんな活動をしているのですか？

保護司の方と連携し、学校訪問等で、更正保護の理解と協力を得るためにボランティア活動をしています。市民祭では募金活動も行いました。私は入会して6年目になります。その他に学校応援団として財部北小学校のコーデイネーターや地域でいきいきサロンもしています。この3つの活動は私の中でつながっています。

学校応援団といきいきサロンで感じたことは？

学校応援団では、コーデイネーターとして子どもたちと一緒に授業に参加し、絵手紙を講師の先生から教えてもらっています。いきいきサロンのメン

バーもその授業に同席します。そこから子どもたちとのふれあいが始まり、距離が縮まりますね。学校を訪問した時は、お互い自己紹介をして交流を持つのですが、子どもたちのじいちゃん、ばあちゃんの名前を聞いてどこの子だというのがわかります（笑）。

財部北小学校だけではなく学校側の依頼で岩北小学校でも絵手紙をしているんですよ。子どもたちに共通しているのが、いつも絵手紙を楽しみに待っていてくれること、元氣よく「こんにちは！」と挨拶をしてくれることです。画材を教室まで運んでくれる子どももいて絵手紙を本当に好きでいてくれるのだなと嬉しくなります。

子どもたちとの関わり方について

小学校の年齢の子どもたちって、私たちが受け入れてくれるの。顔見知りになると、道で会ってもあいさつしてくれます。もし、悪い事をしていたら注意をするし、夕方、自転車に乗っている子がいたら「早く帰りなさい」と声をかけています。心配事が

あれば相談してくる子どももいて、その時は話を聞いています。接してみても子どもたちの考えが分かります。

高瀬さんは地域にとっては何くてはならない存在ですね

私の方がいつも元氣をもらっています。支えてくれる人、協力してくれる人がいて活動ができています。きっかけがあつてつながり、絆が生まれます。一番大事にしたいのはつながり。学校訪問で、子どもたちとの関係性を上手く保てるようになりました。

私は子どもが好きなんです。私が子どもだから（笑）。と優しい笑顔で話してくれた高瀬さん。

子どもたちと楽しく絵手紙を描く姿がすぐに想像できました。

【取材】

島子正一郎 末永順子
牧元宝治